



みとめあい、わかりあう

Q 日本で働く在留外国人はどこの人が一番多いでしょう？
ア. 中国 イ. フィリピン ウ. ベトナム

(参考：厚生労働省「外国人雇用状況の届出状況まとめ(2022年10月末現在)」)

共に生きる社会をめざして

明石市の在留外国人の数は3,847人(2024年1月1日現在)です。人権に関する市民調査では、在留外国人に関することで人権上問題があることとして「文化や生活風習の違いから受け入れられなかったり、その違いから嫌がらせを受けること」があげられています。違いを認め合うとともに「私たちの当たり前は世界から見ると当たり前でないのかもしれない」と立ち止まって考えてみるのが大切なかもしれません。

地域で暮らす在留外国人の方も増えています。文化や習慣の違いもありますが、関わることでお互いを知ることができます。まずはあいさつからはじめてみましょう。

もし、身近に「日本語は難しい、不安だ」という思いの人がいたら、「ようこそ」の気持ちを込めて手を差し伸べてください。日本語がわからないという不安があっても、それ以上のまわりの人の温かさを感じられたら、きっと安心して過ごすことができるはずです。

やさしい日本語

在留外国人は、日本語の理解が難しいために、災害時に必要な情報が届かないなど、さまざまなリスクに直面し、災害弱者になってしまうことがあります。

災害時等に在留外国人の方が「易しく」理解できるように、「優しい」気持ちで書き換えた日本語のことで。 (明石市では各避難所に「コミュニケーション支援ボード・多言語対応ファイル」が整備されています)

コミュニケーション支援ボード…イラストを示したり筆記したりしながら意思の疎通をはかるツールです。

多言語対応ファイル…日本語・英語・中国語・韓国語の4か国語とイラストで表記した用語集とピクトグラム(絵文字)でできています。これを使えば、災害時に在留外国人の方々の不安を軽減できます。



(コミュニケーション支援ボード)

地域で生活する在留外国人の方々とコミュニケーションをとっていききたいものですね。